

Event Guide

イベントガイド第6号

本紙では、地球一周の船旅がより充実したものとなるよう、おすすめの船内企画や旅に関するコラムなどを掲載したり、乗船者の皆さまを紹介する紙面です。日々の船内生活の充実にお役立てください。

この号では7月15日から8月1日までの情報についてお伝えします。

- 7月16日 クルージングパーティー
- 7月19日 さいごの自主企画発表会
- 7月20日 洋上国際会議「TIME FOR PEACE」
- 7月21日～22日 バンクーバー
- 7月24日 カルチャースクール発表会
- 7月25日 シトカ
- 7月26日～27日 アラスカフィヨルド遊覧
- 7月28日 スワード
- 7月31日 スタッフエンターテイメントショー
- 8月1日 GET卒業式&パーティー
消滅日イベント(日付変更線通過)

イベント紹介

●7月20日 洋上国際会議「TIME FOR PEACE」

プロジェクトを通して学んできたことを発表します。戦争の被害を学び継承していくには、戦争させない社会を作るためにはどうしたらいいのでしょうか。共に考えていきましょう。水先案内人のコロンえりかさんと有志による共演も予定しています。

●7月24日 カルチャースクール発表会

透明水彩画教室、社交ダンスの発表会をおこないます。皆さまの練習の成果をぜひご覧ください。

●7月26日～27日 アラスカフィヨルド遊覧

迫力満点の氷河と荘厳な静けさが訪れるものを包み込み神秘的な絶景が待ち受けます。クジラやアザラシといった野生動物が見えることもありますので、デッキに出て探してみてもいいでしょう。

●7月31日 スタッフエンターテイメントショー

みなさまからのたくさんの笑顔と優しい言葉に、スタッフ一同どれだけ励まされたことでしょう。クルーズの締めくくりに、そんな皆さまへの感謝を込めて、スペシャルショーをお届けします。いつもの私たちとは少し違う姿もお楽しみに。

プログラムディレクター 鈴木隆之

ピースボート災害支援センター(PBV) 能登半島地震・豪雨災害支援に関するご案内



2024年元日に発生した能登半島地震から、まもなく1年半が経過しました。8万棟を超える家屋が被害を受け、未だに多くの方が仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。ようやく生活再建への希望を見出し始めた矢先、9月21日には記録的な豪雨による洪水や土砂災害が能登半島を再び襲いました。

災害支援を専門とするピースボート災害支援センター(PBV)は、地震発生直後の2024年1月2日より現地にスタッフを派遣し、特に被害の大きかった石川県珠洲市や輪島市を中心に、多岐にわたる支援活動を続けてきました。在宅避難者支援、長期化する避難所の環境整備、仮設住宅入居者への家電・入浴支援、コミュニティ支援など、その活動は広範囲にわたります。

本クルーズにPBVスタッフがスワードから乗船し、能登の現状やこれまでの支援活動についてお伝えします。復旧・復興にはまだ長い時間を要し、今後も息の長い支援が不可欠であり、船内では、継続的な支援にご協力いただける「災害支援サポーター」も募集いたします。皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(災害支援サポーター 受付ブース)

時間:7月29日～8月6日 10:00-12:30/14:00-17:30

場所:7階後方ピースボートセンター ※クレジットカードをお持ちください

人と人のつながりをつくるUPA国際協力プロジェクト

ピースボートのプロジェクト活動の一つに、船で旅をする利点を生かし、世界各地へ支援物資を届けるUPA国際協力プロジェクトがあります。今クルーズでもポートルイス、ポートエリザベス、ケープタウン、クリストバル、マンサニージョの5か所で活動をおこないました。オプションツアーに参加して支援物資を届けたという方や、乗船前に募集していた支援物資を送ったという方もいらっしゃるかもしれません。この場を借りてお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

UPAプロジェクトで届ける物資は、必要な場所に必要なものが届けられるように、現地視察やカウンターパートナーと協議して日本国内で募集をしています。届け先からの反応の一例として、ポートエリザベスのタウンシップ内にある施設に衛生用品や衣類を届けた際には、今後もこのつながりを大切にしていきたいと言ってくれました。この様に「支援する／支援される」、ものを「送る／受け取る」だけではなく、現地とのコミュニケーションを大切にしながら、共に協力関係を築くようにしています。

支援物資を集めるところから、仕分けや輸送、直接手渡すところまでを一貫しておこなえるのはピースボートならではの、誰でも気軽にできる国際協力です。生活に彩りが加えられ、豊かになることを願い、私たちはこれからも届け続けていきます。



今クルーズのUPA支援物資内容 ※()は届けた数です

- ・ポートルイス：衣類(150)等
- ・ポートエリザベス：石鹸(150)、生理用品(15)、歯ブラシ(215)、綿棒(361)等
- ・ケープタウン：楽器(23)、折り紙(79)、衣類(257)
- ・クリストバル：裁縫用品(719)、文房具(290)
- ・マンサニージョ：タオル(60)、歯ブラシ(100)、スポーツ用品(23)、文房具(1309)

今クルーズで計4,000個ほどの支援物資を届けることができました。

UPA担当 中町竜之介・網代千菜

参加者紹介



今回は、(左) Martha Elena Welshさん(マルタ・エレーナ・ウェルスさん)と、(右) Pablo Romoさん(パブロ・ロモさん)のご夫婦を紹介します。

＜どちらから参加されましたか？＞
メキシコのメキシコ市からです。

＜乗船したきっかけはありますか？＞

長く仕事をしてきましたが、ゆっくり人生を考え直す時間がほしかったことと、今年が結婚20周年になるのでそのお祝いも兼ねて乗船することにしました。世界中で色んなことが起きているので、今こそ平和を考える必要があると思っています。

＜乗船して約2か月が経ちましたが、感想を聞かせてください＞

(マルタさん)文化の違いや平和について学ぶことができ、再認識と反省する機会を与えてくれていると思います。以前、北極圏に入った時に流氷が見れてすごく良かったです。美しい景色の裏に水先案内人のワン・ミアオさんが話していた環境問題が発生していることを知り、私達人類の責任でもあるので考えていけないと思いました。

(パブロさん)日本、カザフスタン、アメリカの被爆者の方の話を聞き、自分の人生を再構築して一人の被害者から平和を謳える活動家に出会えたこと。アジア圏の文化を知る機会が今までなかったので、知れたこと。航海して海がどれだけ広く、美しいのかと知れたこと。この3点が特に印象に残りました。

＜これからやりたいことはありますか？＞

(マルタさん)あと1か月という時間は長いようで短く、あっという間に過ぎてしまいます。残りの時間を最大限活用して講座に参加したり、色んな人と話がしたいです。

(パブロさん)時間が止まって欲しいですね。乗船していて、同じ空間にいるのに色んな事が起きている環境がとても良いですね。同じ空間でダンスしたり、語学の講座をしたり、歌っていたり皆うまくバランスがとれて共存ができています。人類は共存できる力を持っているのだと、皆さんを見ていてすごく実感しています。

＜最後にメッセージをどうぞ＞

船を存分に楽しまれてください。自分の経験を共有し、他の人の話も共感すること。ここから平和や未来のための種がここから生まれます。失敗を恐れず、自分が正しいことをやっているか自信がなくても、とにかく挑戦して色んなことを体験してみてください。自分も種の一つ、下船後に花が咲いたら世界で春に向うような環境になっていくでしょう。